

5 m以浅の湾奥部、与那原沿岸の水深2 m以浅海域、知念の南側海域の水深10 m以浅海域で、底質は各海域とも砂、礫サンゴ礁である。体長は11月に5~10 cm、翌年4~5月には体長15 cm前後に成長するようである。

3) 成魚の分布

成魚の分布海域は図-6に示すように、海岸線を取り囲むように分布するが、特に分布密度が高い海域は知念南側海域、久高島北側海域、勝連半島西側海域で、水深は20 m以浅である。底質は砂泥からサンゴ礁である。

4) 胃内容物

10月~2月にかけてはミズン、トウゴロイワシ等のサンゴ礁周辺海域に生息する魚類主体であるが、3月にはサンゴ礁上に生息するウニ、カニ類、貝類等の出現が多くみられる。これは、この時期にサンゴ礁周辺海域からサンゴ礁上に移動することを示すものと思われる。

5) 産卵生態

ハマフエフキの生殖腺熟度指数は、産卵期に近くなって急激に大きくなるようである。その時期は♀では2月下旬~3月上旬であろうと推定されるが、♂についてははっきりしない。産卵期は3~4月に初まり多少幅があるものと推定されるが、その期間については今後の調査によって明らかにしたい。

6) 漁業生産

糸満漁協でのハマフエフキ漁獲量は年間2.45トン~4.00トン、那覇地区漁協では、1.87~2.58トン、勝連漁協では2.08トン~3.17トンである。月別には4~5月に最高を示す。

7) 標識放流

昭和48年1月29日3尾、3月8日16尾、3月22日5尾、計24尾を勝連半島西側海域、および久高島の北~西側海域で放流した。

参 考 文 献

1. 新日本動物図鑑 上中下巻 1965
2. 水産大学校研究報告 第18巻第2号 1969
3. 底魚資源調査報告書 1971 長崎水試
4. 底曳網漁業試験 1971 川崎一男 沖水試報
5. 沖縄の魚 1972 具志堅宗弘